

ZCentral Remote Boostを使った リモートワークによって、 業務効率を大幅アップ



インテル® Xeon® Platinum
プロセッサ



インテル® Xeon® Platinum
プロセッサ



株式会社日本HP
サービス・ソリューション事業本部
技術本部
ワークステーションテクニカルスペシャリスト
清水康輔

- 高負荷なベンチマークや検証作業もリモートで快適実施
- 特別なハードウェアが不要で、無償かつ手軽に導入可能
- 出張先、客先、展示会場、自宅などからいつでもWSをフル活用可能

日本HPのワークステーションテクニカルスペシャリスト清水康輔は、WSのデスクトップにリモートPCからアクセスできるソフトウェア「ZCentral Remote Boost (IRGS: Remote Graphics Software)」を利用して、効率よく柔軟な働き方を実現しています。その使い方や効果をご紹介します。

リモートからWSを快適に利用可能に

清水は、WS導入前のお客様に対して、アプリケーションや使い方を踏まえた上で最適な構成を提案するという技術支援をおこなっています。全国エリアを担当しており、お客様先を訪問することが多く出張が多い生活を送っています。

しかし、以前の清水の働き方はまったく異なるものでした。

検証のための機材を持ち運ぶか、お客様にお送りするか、お客様にHPオフィスに来ていただいていた。検証中はコンピューターの前から離れることが難しく、煩雑な作業が長時間に及んだり、その場で問題解決ができないこともあります。また、お客様先の環境を見させていただくために訪問する時間が取れないこともありました。

その後、清水は「ZCentral Remote Boost」の担当となり、自分でも使い始めました。ZCentral Remote Boostは、WSのデスクトップにPCからリモートアクセスできるHP製の無償ソフトウェアです。高度な圧縮技術により、離れた場所からでも3D CG、CADなどのリッチコンテンツ画面をまるでローカルで使用しているかのような使用感覚で利用可能。複数のユーザー同志でワークステーションの共有および共同作業もできます。

一般的な通信環境とクライアントで 快適リモートワークが可能に

ZCentral Remote Boostを利用することで、どこからでも社内のWSにアクセスして利用できるようになり、本人が希望する現在のよう働き方が可能になりました。清水は、「ホテルや移動中でも、パフォーマンスやアプリケーション機能の検証、ベンチマーク作業などが可能になりました」と語ります。

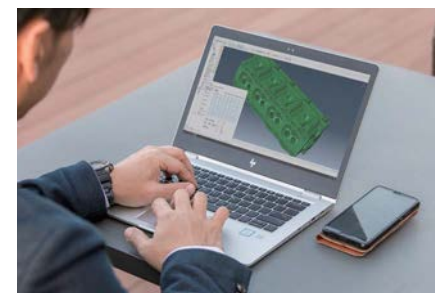
例えばCAEのベンチマークをおこなうような場合、WSがある場所ではできないと、環境の構築から処理まで、ずっとマシンに張り付いて作業することになります。しかし、リモートで作業ができれば、張り付いている必要がありません。「業務の合間にアクセスできるので、商談中に処理を走らせておき、手が空いたら結果を見るといったことが可能になり、体感的には作業時間が約4分の1に減りました」(清水)。

アクセス端末は一般的なPCが使えるため、特別なハイスペックマシンを持ち歩く必要がありません。清水がいつも持ち歩くHP製のビジネスノートPCは軽量薄型なので、出張や移動の頻度が多くても持ち運びに負担を感じることなく、高性能なWSへいつでもどこからでもアクセスできます。

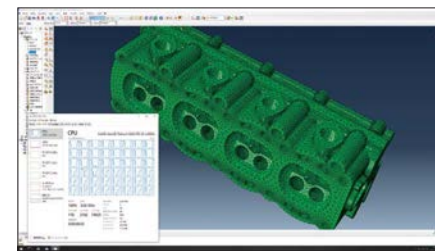
WSとの通信に特別な高速回線が不要な点もメリットです。清水は通常スマートフォンのテザリングで利用しており、快適に利用できています。「先日米国に出張した際、4G回線から東京のWSにアクセスして利用したのですが、問題なく利用で



外出先では、ビジネス用のノートPC1台だけでお客様と対応。



訪問先や出張での解析やレンタルリングチェックもスマートフォンのテザリングで問題なく操作。



このような複雑な構造物の解析の実行や確認もリモートワークでおこなえます。



オフィスワークもリモートで操作できるので、フリーアドレス席でも作業が可能に。

きました」(清水)。また、リモートから電源のON/OFFができるので、必要な時だけWSを起動して利用可能。消費電力の比較的大きいWSを稼働し続ける必要はありません。

同じようなリモート技術に仮想化を活用したVDI(仮想デスクトップ基盤)もあります。しかし、VDI環境を新たに構築しようとするとなりの投資が必要です。その点ZCentral Remote Boostを使えば、ソフトウェアをインストールし接続設定をするだけ。設定方法やノウハウはドキュメント化しポータルサイトで公開しているので、追加コスト無しで、リモート業務環境が実現します。

在宅勤務や集合研修など多彩な活用が可能

お客様先や展示会でおこなうZCentral Remote Boostのデモは、かなり好評です。清水は、「3Dアプリは重たいイメージがあるので、リモートでもスムーズに動く様子をお見せすると皆さん速さに驚かれます」と語っています。中にはデモをご覧いただいた結果、在宅ワークに活用できそうだと導入され、在宅勤務制度を見直されたお客様もいらっしゃいます。

また、3D CADの演習に利用するケースもあります。50人程度の受講生のディスプレイに講師の画面をZCentral Remote Boostを使って表示。受講生は講師の見本画面を見ながら自分で演習を進めることができ効率よく、効果的な演習が実現します。ZCentral Remote Boostは、ネットワークパフォーマンスの範囲内で、大人数での画面共有が可能なので、海外拠点とのデザインレビューなどでも使用されています。

WSをサーバールームやデータセンターに集約し、ZCentral Remote Boostを使ってリモートで作業するお客様も増えています。WSを集約することでIT部門の管理工数が削減できるだけでなく、重要なデータを安全に保全できるようになります。

また、WSの集約によって、ファイルサーバーやデータベースの近くにWSを設置できるため、社内OA用のネットワークではなく、サーバールームの高速なネットワークを使用でき、ファイルのダウンロードやアップロードも高速処理が可能です。CAEの解析結果や、3D CADのなどの大容量データの取り扱いも快適になります。

海外拠点にサーバーを置くことを不安に感じるお客様にも好評です。「海外拠点の端末には画面を転送するだけでデータは日本から動かないので、情報漏えいのリスクを低減できます」(清水)。

工場での利用もあります。広い工場で、CADデータを見ながら打ち合わせをするような場合、WSを台車などに載せて会議室に運び、セッティングするとすると、それだけでかなりの手間と時間がかかってしまいます。そこで、WS自体は動かさず、手元のPCからZCentral Remote Boostでアクセスすれば、その手間も時間もかかりません。

「今年は東京オリンピックがあり、期間中は交通機関が混雑し通勤に支障を来すことが予想されます。エンジニアの方々はZCentral Remote Boostを在宅勤務などに活用いただければと思います」と清水は語ります。

今春ZCentral Remote Boostは、大人数で利用する場合にセッションを自動的に振り分ける新機能をリリース予定。さらに使い勝手がよくなります。ご期待ください。



移動中に、お客様からの急な確認や変更などにもすまやかに対応できます。



ZCentral Remote Boostの初期設定から応用編まで、使用方法について動画でわかりやすく紹介しています。



「応用編/パート2」では、Windows版タブレットやMac版PCでの使用方法、複数台での管理などを紹介しています。

ZCentral Remote Boostについての詳細は
https://jp.ext.hp.com/workstations/zcentral/remote_boost/

